

編集後記：今年の8月から9月にかけて、デンマークのコペンハーゲンに研究滞在しました。昨年も秋に1ヶ月ほど研究滞在したのですが、この1年の間に街で見かける頻度が急激に高くなったものにキックボード（キックスクーター）があります。デンマークは世界を代表する自転車大国で、特にコペンハーゲン市内では、ほぼ全ての道路に広い自転車専用レーン（最低でも2列での走行が可能）が設置されています。キックボードは、その自転車レーンを走ることが許可されています。もともとコペンハーゲンは街自体がコンパクトであり、どこへ行くにも公共交通機関に比べて自転車利用が圧倒的に便利なのですが、近年の地球環境保全の動向もあって環境に優しい自転車の利用者が年々増加しているようです。ちなみに、自転車利用がしやすい街を示す指標として“the Copenhagenize index”なるものが存在する、と聞きました（そのランキングでは、当然ながら？コペンハーゲンは長く1位をキープしています）。さて、そのような状況下で登場したキックボードは、ポップカルチャーに敏感な若者を中心に瞬く間に利用者が増えました。既に、街中の至る所にレンタルキックボードステーションすら存在するほどです。

この1年間にキックボード同様に急激に耳にする機会が増えたもの（言葉）に“flyingless”があります。二酸化炭素排出抑制のために、航空機を利用した長距離の旅行（研究者の場合は学会参加）を可能な限り控えよう、というムーブメントです。既にヨーロッパで

は、“flyingless”に賛同する若手研究者を中心に、飛行機に変えて鉄道の利用を促進しよう、という動きが出ています（この背景には、多数の格安航空会社の出現によってヨーロッパ域内での航空機による移動が非常に簡単になったことがあると考えられます）。完全に飛行機利用を止めた人にはまだ会ったことがありませんが、飛行機利用は本当に必要なものだけに限定しよう、という潮流は今後も続くものと考えられます。日本は、様々な点でヨーロッパとは事情が異なりますが、“flyingless”の精神を広めていくのは非常に良いことだと思いました。

今年の気象学会秋季大会は福岡で開催されます。私が普段住んでいるつくばからですと、福岡へ行くには飛行機利用が様々な点で現実的ですが、今年の春季大会に諸般の事情で参加出来なかった私の場合、秋季大会参加は“本当に必要なもの”の1つに該当します。その分のカーボン・オフセットを如何にして行うか、を考えている今日この頃です。なお、飛行機利用が地球環境に与える負荷を具体的に考えることで、逆説的ではありますが、学会参加を絶対に有意義なものにしよう、という付加的効果（元々そういう意識ではいますが、それが一層強まる、ということ）が出てくるようにも感じています。その個人的目標の達成を目指して、福岡で多くの気象学会員の皆さまと交流することを、心から楽しみにしております。

（庭野匡思）